



医療と福祉の連携のために シームレスな多職種連携・口腔ケア推進を目指して

大学院医歯薬学研究所口腔保健支援学分野 教授(写真中央)

尾崎 和美(おざき かずみ)

同地域医療福祉学分野 教授(写真左)

白山 靖彦(しらやま やすひこ)

同口腔保健福祉学分野 講師(写真右)

柳沢 志津子(やなぎさわしずこ)

ICTシステムを活用した 高齢者福祉施設における 口腔ケア推進事業

高齢化対策は、人類的課題になってきていると言っても過言ではありません。特に日本は世界でもトップクラスの超高齢社会を迎えています。高齢化は、すなわち「平均寿命の延伸」であり、これは医療の進歩もたらした成果

の一つと言えるでしょう。しかしながら、国民医療費の増大という早急に解決すべき課題を生み、そうした背景により、「予防医学の重要性」が見直されています。食生活をはじめとする生活習慣を改善することで生活習慣病を予防するといったことも予防医学の一つ(二次予防)として重要ですが、疾病の早期発見・早期治療などによって重症化を防ぐ対策(二次予

の分野でも介護記録のICT化がようやく普及し始めたところで、口腔ケアという観点からも歯科衛生士や介護担当者間で口腔ケアに関する情報をICT技術で管理できれば、介護業務としての口腔ケアが一層定着し、多職種連携も一層進展すると考えられます。

キーワードは「情報共有」

尾崎先生たちは、このような背景に着目し、ICTを駆使した「介護・福祉の現場への口腔保健業務を含む歯科的支援のためのシステム(口腔保健業務支援システム、略して「ACSSOC」)を開発し、高齢者福祉施設に導入しました。ICTシステムの開発は尾崎先生が担当しました。

「口腔ケア業務も介護業務も、施設によって運用や介護記録の様式は少しずつ異なります。施設間で統一されている部分もあります。が、今はICTシステムを普及させることが大事なので、各施設で運用している業務や介護記録の様式にある程度沿うようシステムをカスタマイズしています。業務のICT化が全くなされてはいない施設では、こういったシステムに最初から拒否反応を示すこともあり

それまでの運用をなるべく変えないようなシステムを導入し、それに慣れてもらうことが大切です。システムの普及によって、施設での口腔ケア連携が推進されていくことを期待していますし、ゆくゆくは施設ごとのデータをまとめてビッグデータとして蓄積することで、単に業務効率化のツールとしてだけでなく、疫学研究など新たな活用方法を目指していきたいと考えています。」

「ICTシステムを通して介護職と歯科衛生士の意思疎通がスムーズになると、入所者の些細な状況の変化も見落とさないようになります。しかし現場では予測できない様々なこと、さらに利用者の嗜好や家族の要望などにも応えることが求められますから、常にICTや運用双方のシステムに改良を加えていかなければなりません。現場の声こそ大切です。」

終わりになき挑戦

先生方は、徳島大学歯学部が2011年から5カ年計画で取り組んだ「ICTプロジェクト」の中で、高齢者福祉施設へのICTシステムの導入という切り口で口腔ケア推進事業に取り組んできました。

現在先生方を中心に、口腔ケアに限らず食事など栄養管理もできるような包括的ICTシステムの構築とその普及に向けた活動を鋭意行っています。

科衛生士からアドバイスを受けた介護職員が、毎日の介護業務の一つとして入所者に口腔ケアを行うといった、継ぎ目のない、すなわちシームレスな口腔ケアが行われてこそ入所者の一番の楽しみである「食事」を高いレベルで維持することが可能となります。

しかし現実には、日々の介護業務の忙しさから介護職員と歯科専門職との連携が不十分になったり入所者への口腔ケアが後回しになりがちになってしまっているところがあるようです。こうした状況の背景には、介護職員の離職率の高さなどマンパワー不足もその原因の一つですが、介護業務の多さに加え介護記録により業務の根拠を明確にする責任が強いられる点などがあげられます。交代制をとる介護業務では担当者同士の申し送りや介護記録に記した情報を共有しますが、口腔ケアという観点からの詳細な申し送り、ましてや歯科医療従事者と情報を共有するためのツールは、現在のところほとんど見当りません。

さて、近年の目覚ましい情報通信技術(Information and Communication Technology・ICT)の進歩によって医療に限らずあらゆる業界でICT化が急速に進んでいます。介護・福祉

ある経口維持・経口移行への取り組みをサポートするための新規Webシステム(食形態選択のためのアルゴリズム)も近い将来のうちに実現したいと思います。今後は、さらに様々な分野の専門家とタッグを組み、必要な情報をより包括的に蓄積・管理できるようなシステムへと進化させていきたいと考えています。」と展望しています。

援を行っています。今後もシステムの更なる拡充と多くの高齢者福祉施設への導入を目指し、介護・福祉分野における口腔ケアの思想普及や啓発活動は勿論のこと、高齢者福祉施設だけでなく在宅の要介護高齢者へのサポートも視野に入れながら、人々の「食」のQOL(Quality of Life)の向上をICTあるいは運用という両面からサポートできるように体制を整備していく予定です。今後も口腔保健支援のためのシステム構築へ、飽くなきチャレンジは続きます。

口腔保健支援ICTシステムの今後の展開



徳島大学と特養(西表島)の間で行ったテレビ会議



ACSSOC介護職版の導入説明



システムを導入した特別養護老人ホーム(沖縄県西表島)での口腔ケアに関するアセスメント・視察